

三重県経済の現状と見通し<2021年5月>

1. 景気判断一覧表

部門	個別項目	基調判断(方向等)	基調判断の 前月との 比較(注1)	水準評価 (注2)
		詳細		
総括判断	景気の現状	<p><b>厳しい状況にあるものの、一部で下げ止まりの動きがみられる</b></p> <p>依然として厳しい状況にあるが、米国や中国の景気回復などにより、企業部門を中心に下げ止まりの動きがみられる。</p>	→	☁️ ☔️
家計部門	個人消費	<p><b>持ち直し傾向にあるが、一部に下押し圧力がみられる</b></p> <p>大型小売店販売額(全店ベース)は、6か月振りの前年比減少</p>	→	☁️
	住宅投資	<p><b>弱い動きがみられる</b></p> <p>住宅着工戸数は、2か月連続の前年比減少</p>	→	☁️
	観光	<p><b>落ち込んでいる</b></p> <p>県内施設延べ宿泊者数は、20か月連続の前年比減少</p>	→	☔️
	雇用・所得	<p><b>下げ止まりの動きがみられる</b></p> <p>有効求人倍率(季節調整値)は、2か月振りの前月上昇</p>	→	☁️ ☔️
企業部門	企業活動	<p><b>上向きつつある</b></p> <p>鉱工業生産指数は、3か月振りの前年比上昇</p>	↗️	☁️ ☔️
	企業倒産	<p><b>小康状態</b></p> <p>倒産件数は、2か月振りの前年比減少</p>	→	☁️
	設備投資	<p><b>持ち直しつつある</b></p> <p>非居住用建築物着工床面積は、2か月連続の前年比増加</p>	↗️	☁️
海外部門	輸出	<p><b>上向きつつある</b></p> <p>四日市港通関輸出額は、3か月振りの前年比増加</p>	→	☁️ ☔️
公共部門	公共投資	<p><b>持ち直しの動きがみられる</b></p> <p>公共工事請負金額は、3か月連続の前年比増加</p>	→	☁️
その他	物価	<p><b>下落している</b></p> <p>津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、9か月連続の前年比下落</p>	→	↘️

当面の見通し	<p><b>感染者数が再拡大するなか、新型コロナ流行前を下回る状況が続く見通し</b></p>
	<p>三重県でも「まん延防止等重点措置」が発出されるなか、引き続き感染リスクが高いとされる外食などの消費活動を自粛する動きが残るため、経済活動の水準は新型コロナ流行前を下回る状況が続く見通し。</p>

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗️: 上方修正、→: 据え置き、↘️: 下方修正を示す。

(例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる)

したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、

☀️: 晴、☀️☁️: 晴～曇、☁️: 曇、☁️☔️: 曇～雨、☔️: 雨、を示す。

(注3)個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先	三十三総研 調査部 佐藤
	電話: 059-354-7102 Mail: 33ir@miebank.co.jp

2. 個別部門の動向: 家計部門

個人消費	持ち直し傾向にあるが、一部に下押し圧力がみられる	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☁

＜現状＞

- 個人消費は、持ち直し傾向にあるが、一部に下押し圧力がみられる。
- 個人消費の動向を支出者側からみると、3月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比+66.3%と5か月振りの増加(図表1)。勤労者世帯可処分所得(津市)は同▲14.6%と7か月連続の減少(前掲図表1)。
- 個人消費の動向を販売者側からみると、3月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースで前年比▲1.8%と6か月振りの減少となったほか、既存店ベースでも同▲1.3%と2か月連続の減少(図表2)。全店ベースを商品別にみると、衣料品(同+5.9%)は5か月振りの増加となった一方、飲食料品(同▲2.3%)が16か月振りの減少となったほか、家庭用品(同▲20.4%)も減少。
- 4月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、5,839台(前年比+32.0%)となり、前年比で7か月連続の増加(図表3)。車種別にみると、小型車(同+2.7%)が6か月振りに増加したほか、普通車(同+57.9%)、軽乗用車(同+37.4%)もそれぞれ7か月連続の増加。

＜見通し＞

- 東海地域の現状判断DI(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、4月の家計部門の水準は36.4と、前月(48.2)より大幅に悪化。ウォッチャーの声では、「緊急事態宣言やまん延防止等重点措置に伴う移動制限や出控えによって、個人消費が急激に減退している」といった声が聞かれた。2～3か月先の景気の先行きに対する判断DIについても、39.4と2か月連続で悪化しており、変異株による感染拡大の長期化が見込まれるなか、先行きの景況感について不透明感が強い状況。
- 個人消費の先行きについて、地域経済分析システム「V-RESAS」をみると、執筆時点で最新データである5月第2週の移動人口は2019年同週比▲38%、飲食店情報閲覧数は同▲56%と減少が続くなか、足元では変異ウイルスによる感染者が増加し、三重県でも「まん延防止等重点措置」が発出されるなど、外出自粛や接触機会削減の動きが当面続くと予想され、消費低迷は長期化する可能性が大。

◆3月 勤労者世帯・消費支出

○ 508千円 前年比 +66.3% (5か月振りの増加)

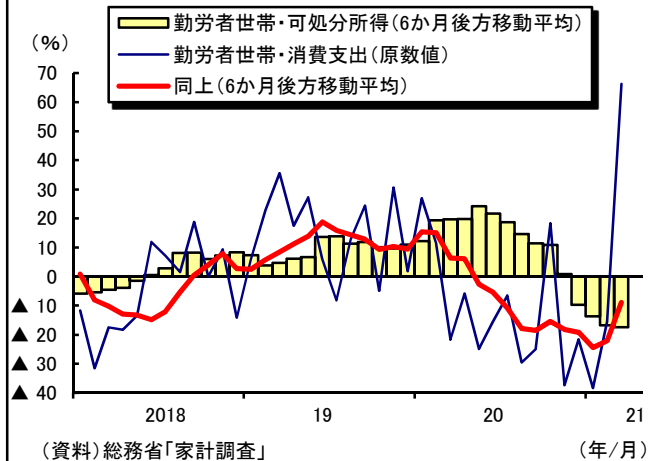
◆3月 大型小売店販売額

○ 全店 前年比 ▲1.8% (6か月振りの減少)  
○ 既存店 前年比 ▲1.3% (2か月連続の減少)

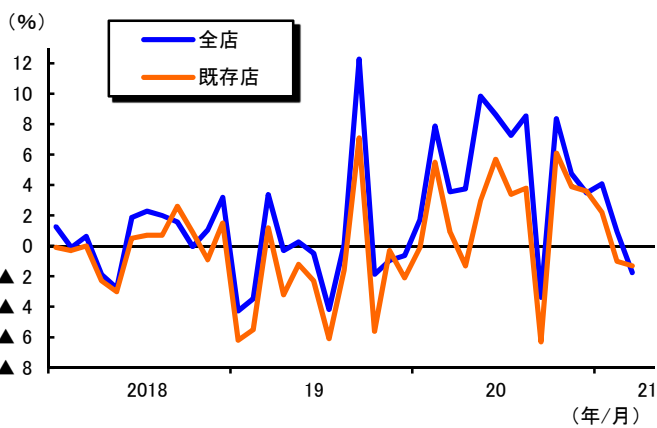
◆4月 新車乗用車販売台数<含む軽>

○ 5,839台 前年比 +32.0% (7か月連続の増加)  
・普通車 1,929台 前年比 +57.9% (7か月連続の増加)  
・小型車 1,454台 前年比 +2.7% (6か月振りの増加)  
・軽乗用車 2,456台 前年比 +37.4% (7か月連続の増加)

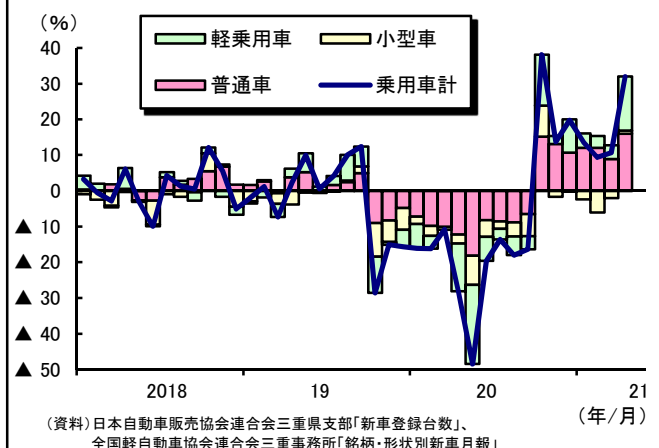
図表1 津市消費支出等<前年比>



図表2 大型小売店販売額<前年比>



図表3 新車乗用車販売台数<前年比>



<b>住宅投資</b>	<b>弱い動きがみられる</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒																											
		<b>水準評価</b>	☁																											
<p><b>＜現状＞</b>                  ○住宅投資は、弱い動きがみられる。                  ○3月の住宅着工戸数は、817戸（前年比▲0.8%）となり、前年比で2か月連続の減少（図表4）。利用関係別にみると、給与住宅（同+550.0%）が増加した一方、貸家（同▲6.0%）、分譲住宅（同▲8.5%）、持家（同▲0.5%）がそれぞれ8か月連続、3か月振り、4か月振りの減少。</p> <p><b>＜見通し＞</b>                  ○雇用・所得環境の悪化に伴う住宅取得マインドの低迷や、金融機関によるアパート建築への融資姿勢の慎重化などを背景に基本的には弱い動きで推移することが予想される。もともと、名古屋市のマンション価格が高止まりするなか、名古屋に近い四日市市や桑名市の近鉄電車が停車する駅周辺ではマンション用地の需要が高まっており、分譲マンションが押し上げる局面も予想される。</p>																														
<p><b>◆3月 住宅着工戸数</b></p> <table border="0"> <tr> <td>○ 817戸</td> <td>前年比 ▲0.8%</td> <td>(2か月連続の減少)</td> </tr> <tr> <td>・持家</td> <td>416戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>前年比 ▲0.5%</td> <td>(4か月振りの減少)</td> </tr> <tr> <td>・貸家</td> <td>267戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>前年比 ▲6.0%</td> <td>(8か月連続の減少)</td> </tr> <tr> <td>・給与住宅</td> <td>26戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>前年比 +550.0%</td> <td>(2か月振りの増加)</td> </tr> <tr> <td>・分譲住宅</td> <td>108戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>前年比 ▲8.5%</td> <td>(3か月振りの減少)</td> </tr> </table>		○ 817戸	前年比 ▲0.8%	(2か月連続の減少)	・持家	416戸			前年比 ▲0.5%	(4か月振りの減少)	・貸家	267戸			前年比 ▲6.0%	(8か月連続の減少)	・給与住宅	26戸			前年比 +550.0%	(2か月振りの増加)	・分譲住宅	108戸			前年比 ▲8.5%	(3か月振りの減少)	<p><b>図表4 新設住宅着工戸数&lt;前年比&gt;</b></p> <p>(資料)国土交通省「建築着工統計」 (年/月)</p>	
○ 817戸	前年比 ▲0.8%	(2か月連続の減少)																												
・持家	416戸																													
	前年比 ▲0.5%	(4か月振りの減少)																												
・貸家	267戸																													
	前年比 ▲6.0%	(8か月連続の減少)																												
・給与住宅	26戸																													
	前年比 +550.0%	(2か月振りの増加)																												
・分譲住宅	108戸																													
	前年比 ▲8.5%	(3か月振りの減少)																												

<b>観光</b>	<b>落ち込んでいる</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒									
		<b>水準評価</b>	☔									
<p><b>＜現状＞</b>                  ○観光は、落ち込んでいる。                  ○2月の三重県内施設延べ宿泊者数は、258千人泊（前年比▲49.7%）となり、前年比で20か月連続の減少（図表5）。外国人宿泊者数については2.3千人泊（同▲72.7%）となり、前年比で13か月連続の大幅減。</p> <p><b>＜見通し＞</b>                  ○三重県が発表したゴールデンウィークの県内主要観光施設の観光入込客数によると、延べ人数は80万5,178人と、新型コロナがまん延していない2年前と比べて219万7,680人減少し、現在の調査対象となった平成27年度以降で最低に。5月には客足の減少により鳥羽市の旅館が倒産するなど、観光を取り巻く環境は厳しい状況が続く見通し。</p>												
<p><b>◆2月 県内施設延べ宿泊者数</b></p> <table border="0"> <tr> <td>○ 258千人泊</td> <td>前年比 ▲49.7%</td> <td>(20か月連続の減少)</td> </tr> <tr> <td>・外国人</td> <td>2.3千人泊</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>前年比 ▲72.7%</td> <td>(13か月連続の減少)</td> </tr> </table>		○ 258千人泊	前年比 ▲49.7%	(20か月連続の減少)	・外国人	2.3千人泊			前年比 ▲72.7%	(13か月連続の減少)	<p><b>図表5 三重県内施設延べ宿泊者数</b></p> <p>(資料)国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」 (年/月)</p>	
○ 258千人泊	前年比 ▲49.7%	(20か月連続の減少)										
・外国人	2.3千人泊											
	前年比 ▲72.7%	(13か月連続の減少)										

雇用・所得	下げ止まりの動きがみられる	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☁️☔️

《現状》

- 雇用・所得情勢は、下げ止まりの動きがみられる。
- 3月の有効求人倍率(季節調整値)は、1.13倍(前月差+0.03ポイント)と2か月振りの上昇。新規求人倍率(季節調整値)も、2.04倍(同+0.20ポイント)と3か月振りの上昇(図表6)。
- 3月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースで前年比+8.7%と20か月振りの増加(図表7)。業種別にみると、製造業(同+4.4%)では、汎用機械(同+45.6%)や電気機械(同+41.6%)、食料品(同+50.8%)が増加。非製造業では、卸売業、小売業(同▲23.6%)や運輸業、郵便業(同▲12.9%)が減少した一方、その他サービス業(同+53.4%)や建設業(同+31.7%)などが増加。
- 2月の所定外労働時間指数は、前年比▲7.5%と17か月連続の低下。名目賃金指数(同▲0.2%)については3か月連続の低下で、きまって支給する給与(同▲1.2%)は7か月連続の低下(図表8)。

《見通し》

- 三十三総研が県内中小企業を対象に実施した「第50回経営者アンケート」によると、2021年4月～10月に雇用を「増やす」と回答した企業の割合は30.8%と前回見通し(22.5%)を上回っているほか、「減らす」と回答した企業の割合は4.4%と前回見通し(5.1%)を下回っており、現状では県内中小企業の雇用環境に目立った悪化はみられず。もっとも、三重県でも「まん延防止等重点措置」が発出されているため、飲食業などで雇用調整圧力が高まることが懸念される。
- 所得についても、新型コロナによる企業収益の悪化が長期化するなか所定内給与への下押し圧力が強まっているほか、今春の賃上げも低調な動きが予想されることから、当面は賃金の下落基調が続く見通し。

◆3月 求人倍率<季節調整値>

- 有効求人倍率 1.13倍  
前月差 +0.03ポイント (2か月振りの上昇)
- 新規求人倍率 2.04倍  
前月差 +0.20ポイント (3か月振りの上昇)

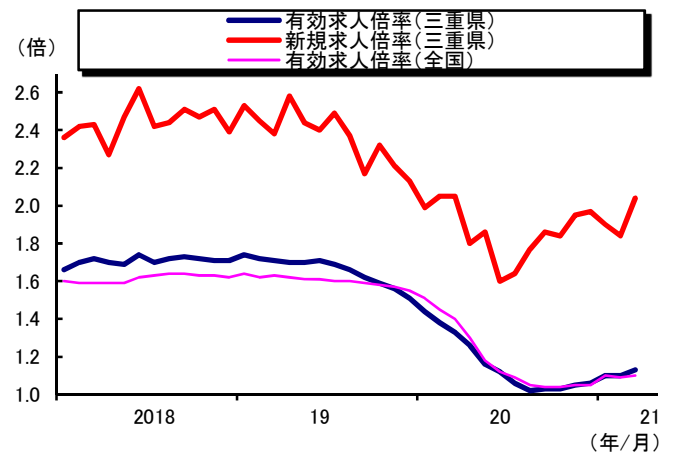
◆3月 新規求人数<学卒・パートタイム除く>

- 前年比 +8.7% (20か月振りの増加)

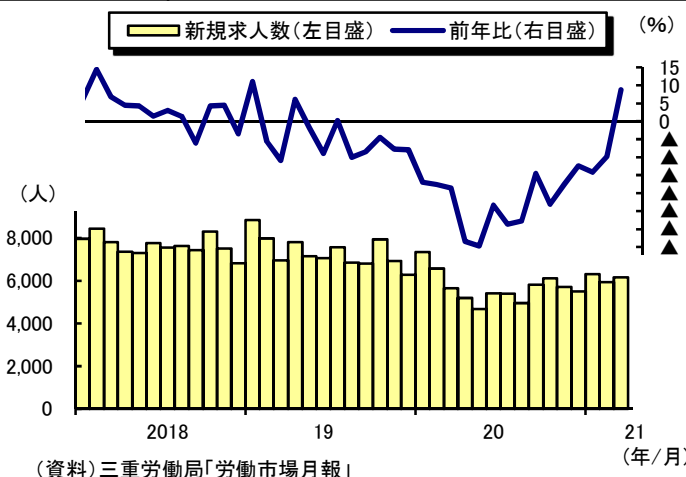
◆2月 労働時間・賃金指数<調査産業計>

- 所定外労働時間指数  
前年比 ▲7.5% (17か月連続の低下)
- 名目賃金指数  
前年比 ▲0.2% (3か月連続の低下)
- きまって支給する給与  
前年比 ▲1.2% (7か月連続の低下)

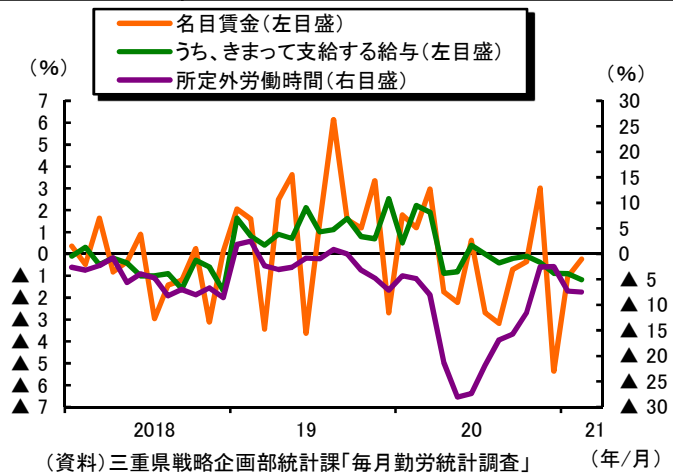
図表6 有効・新規求人倍率<季節調整値>



図表7 新規求人数<学卒・パート除く>



図表8 労働時間・賃金指数<調査産業計、前年比>



3. 個別部門の動向:企業部門

企業活動	上向きつつある	基調判断の前月との比較	↗
		水準評価	☁️📈
<p>《現状》</p> <p>○企業の生産活動は、上向きつつある。</p> <p>○3月の鉱工業生産指数は、前年比+8.5%と3か月振りの上昇(図表9)。業種別にみると、汎用・生産用・業務用機械(同▲10.8%)が20か月連続の低下となった一方、電子部品・デバイス(同+14.6%)が2か月連続で上昇したほか、輸送機械(同+9.0%)が2か月振り、化学(同+14.1%)も2か月連続で上昇。</p> <p>《見通し》</p> <p>○先行き生産は、緩やかに持ち直しに向かう見通し。</p> <p>○電子部品・デバイスは、NANDフラッシュメモリを複数個搭載するパソコンやサーバーなどに使う記憶装置の一種であるSSDについて、在宅勤務の定着によるパソコン需要や新型ゲーム機向けの採用も広がり、市況に底入れの兆しが出ていることから、生産拡大が期待される状況。</p> <p>○輸送機械は、コロナ禍で「密」回避への意識が高まっているなか自動車需要は堅調であるものの、世界的な半導体不足等を背景にホンダは5月も鈴鹿製作所の生産を5日間停止するなど、今後も生産調整を迫られる局面が続くことが懸念される。</p>			
<p>◆3月 鉱工業生産指数&lt;2015年=100&gt;</p> <p>○ 118.1 前年比 +8.5% (3か月振りの上昇)</p> <p>・汎用・生産用・業務用機械工業 前年比 ▲10.8% (20か月連続の低下)</p> <p>・電子部品・デバイス工業 前年比 +14.6% (2か月連続の上昇)</p> <p>・輸送機械工業 前年比 +9.0% (2か月振りの上昇)</p> <p>・化学工業 前年比 +14.1% (2か月連続の上昇)</p>		<p>図表9 鉱工業生産指数&lt;前年比&gt;</p> <p>(資料)三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p>	

企業倒産	小康状態	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☁️
<p>《現状》</p> <p>○企業倒産は、小康状態。</p> <p>○4月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は1件(前年比▲6件)と前年比で2か月振りの減少。負債総額は170百万円(同▲665百万円)と前年比で3か月振りの減少(図表10)。</p> <p>《見通し》</p> <p>○金融機関において引き続き貸出先へのリスケジュールやコロナ対策のセーフティネット融資を積極的に提案していることもあり倒産発生は抑制された状況となっている。もっとも、三重県では「まん延防止等重点措置」が発出されるなど新型コロナの収束が見通せないなか、外出自粛や休業、時短営業などが影響を及ぼし、サービス関連を中心に「息切れ破たん」や「あきらめ型」などの形態の倒産が進むことが懸念される。</p>			
<p>◆4月 企業倒産</p> <p>○ 倒産件数 1件 前年比 ▲6件 (2か月振りの減少)</p> <p>○ 負債総額 170百万円 前年比 ▲665百万円 (3か月振りの減少)</p>		<p>図表10 倒産件数・負債総額&lt;負債総額1,000万円以上&gt;</p> <p>(資料)㈱東京商工リサーチ津支店</p>	

<b>設備投資</b>	<b>持ち直しつつある</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	↗
		<b>水準評価</b>	☁
<p>◀<b>現状</b>▶</p> <p>○企業の設備投資は、持ち直しつつある。</p> <p>○3月の非居住用建築物着工床面積は、46千㎡（前年比+45.5%）と前年比で2か月連続の増加。4月の貨物車登録台数（除く軽）は、445台（同+18.4%）と前年比で3か月連続の増加（図表11）。</p> <p>◀<b>見通し</b>▶</p> <p>○「第50回経営者アンケート」をみると、2021年4月～10月に設備投資を「実施する」と回答した企業の割合は27.4%と、前回見通し（26.5%）対比で上昇しているほか、「実施しない」と回答した企業の割合は42.7%と前回見通し（49.2%）対比で低下しており、県内中小企業の投資マインドはやや持ち直している。</p> <p>○先行きも、業績が回復傾向にある製造業を中心に先送りしていた投資を再開することが見込まれるほか、道路交通網の整備により立地の優位性が高まるなか大企業の県内投資も進み、持ち直して推移する見通し。</p>			
<p>◆<b>3月 非居住用建築物着工床面積</b></p> <p>○ 46千㎡ 前年比 +45.5% （2か月連続の増加）</p> <p>◆<b>4月 貨物車登録台数</b></p> <p>○ 445台 前年比 +18.4% （3か月連続の増加）</p>		<p><b>図表11 設備投資関連指標&lt;前年比&gt;</b></p>	
		<p>(資料)国土交通省「建築着工統計」、日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」、三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p>	

**4. 個別部門の動向:海外部門**

<b>輸出</b>	<b>上向きつつある</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	☁☔
<p>◀<b>現状</b>▶</p> <p>○輸出は、上向きつつある。</p> <p>○4月の四日市港通関輸出額は、687億円（前年比+15.6%）となり、前年比で3か月振りの増加（図表12）。コロナ禍で急速に落ち込んだ反動が出る形で大幅な増加に。品目別にみると、石油製品（同▲32.3%）の減少が続いた一方、有機化合物（同+114.4%）や電気機器（同+37.9%）が増加。</p> <p>◀<b>見通し</b>▶</p> <p>○産業高度化に伴う設備投資の拡大などを背景に、電気機器類などに対する需要が堅調な、輸出額の約2割を占める中国向けが今後も輸出全体をけん引すると予想される。輸出額の約1割を占める英国についても、新規感染者数、死亡者数が鈍化しており、経済活動の再開に伴い回復に転じるとみられ、総じて緩やかに持ち直すことが期待される。なお、世界最悪のペースで感染が拡大するインドの変異株の影響には注視する必要。</p>			
<p>◆<b>4月 四日市港通関輸出額</b></p> <p>○ 687億円 前年比 +15.6% （3か月振りの増加）</p> <p>・石油製品 45億円 前年比 ▲32.3% （10か月連続の減少）</p> <p>・有機化合物 62億円 前年比 +114.4% （3か月連続の増加）</p> <p>・電気回路等の機器 63億円 前年比 +3.7% （3か月振りの増加）</p> <p>・乗用車 23億円 前年比 ▲66.2% （3か月連続の減少）</p> <p>・自動車の部分品 44億円 前年比 ▲2.2% （6か月連続の減少）</p> <p>・科学光学機器 17億円 前年比 +114.0% （2か月連続の増加）</p>		<p><b>図表12 四日市港通関輸出額&lt;前年比&gt;</b></p>	
		<p>(資料)名古屋税関四日市支署「管内貿易概況」</p>	

### 5. 個別部門の動向:公共部門

<b>公共投資</b>	<b>持ち直しの動きがみられる</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	→
		<b>水準評価</b>	☁
<p><b>《現状》</b>                  ○公共投資は、持ち直しの動きがみられる。                  ○4月の公共工事請負状況をみると、請負件数は前年比+18.9%と5か月振りの増加。請負金額は同+19.3%と3か月連続の増加(図表13)。中日本高速道路において、伊勢湾岸自動車道や伊勢自動車道の改良・補修に関する大型工事があった影響によるもの。</p> <p><b>《見通し》</b>                  ○紀勢自動車道勢和多気JCT~大宮大台ICの4車線化など道路交通網整備のための大型工事が行われるとみられるほか、県の2021年度予算において防災・減災、国土強靱化に向けて1,100億円超の公共事業費が盛り込まれるなど防災・減災対策の工事も引き続き行われるとみられ、持ち直して推移する見通し。</p>			
<p><b>◆4月 公共投資</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公共工事請負件数 208件 前年比 +18.9% (5か月振りの増加)</li> <li>○ 公共工事請負金額 224億円 前年比 +19.3% (3か月連続の増加)</li> </ul>		<p><b>図表13 公共工事請負金額</b></p>	
		<p>(資料) 東日本建設業保証㈱三重支店</p>	

### 6. 個別部門の動向:その他

<b>物価</b>	<b>下落している</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	→
		<b>水準評価</b>	↘
<p><b>《現状》</b>                  ○物価は、下落している。                  ○4月の津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比▲0.2%と9か月連続で下落(図表14)。教養娯楽(同+1.2%)や住居(同+0.7%)が上昇した一方、光熱・水道(同▲3.9%)の下落が続いたほか、交通・通信(同▲1.6%)も下落。</p> <p><b>《見通し》</b>                  ○物価の先行きについて、感染の収束が見通せないなか移動を伴うサービスの価格が上がり難い状態が続くほか、携帯電話通信料の引き下げが下押しする一方、①巣ごもり需要の高まりから食料品や家電製品などの消費は堅調なものが多いこと、②原油価格の上昇を受けてエネルギー価格がプラスに作用すること、③前年の「Go To トラベル」による宿泊料の大幅下落の反動が出ることなどから、上昇に転じることが予想される。</p>			
<p><b>◆4月 消費者物価指数&lt;生鮮食品を除く、2015年=100&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 101.4 前年比 ▲0.2% (9か月連続の下落)</li> <li>・食料(生鮮食品を除く) 前年比 ±0.0% (横這い)</li> <li>・住居 前年比 +0.7% (4か月連続の上昇)</li> <li>・光熱・水道 前年比 ▲3.9% (6か月連続の下落)</li> <li>・交通・通信 前年比 ▲1.6% (7か月連続の下落)</li> <li>・教養娯楽 前年比 +1.2% (4か月連続の上昇)</li> </ul>		<p><b>図表14 津市消費者物価指数&lt;前年比&gt;</b></p>	
		<p>(資料) 総務省「消費者物価指数」</p>	



### 1. 終末期患者の緩和ケア病院「桜の森病院」が開院

- 4月1日、鈴鹿医療科学大学の白子キャンパス敷地内に、末期がん患者らの緩和ケアを専門とする完全独立型の付属病院「桜の森病院」が開院。緩和ケアに特化した病院は全国7か所目で、大学付属の完全独立型緩和ケア病院の開院は全国で初めて。
- 病院は鉄筋平屋3,400㎡。全25床が個室で、散策用の共通バルコニーを備える。体力の落ちた患者がリフトで入浴できる浴室、心を落ち着かせる瞑想室、家族が待機できる家族宿泊室もある。地域の病院の紹介で入院患者を受け入れ、常勤と非常勤の医師や看護師ら計30人余の体制で緩和ケアにあたる。

### 2. 三重県が「グリーンボンド」発行を決定

- 4月16日、三重県は資金用途を環境分野に限った環境債「みえグリーンボンド(仮)」を2021年度に発行することを決定。今後、対象の事業を決めて低公害車の導入などに充てる方針。グリーンボンドの発行は中部3県の自治体では初めて。県は2019年12月に温室効果ガスの実質排出ゼロを掲げる「脱炭素宣言」を表明しており、グリーンボンドの発行は、率先して環境保全を進める姿勢を示すことで脱炭素に向けた機運を高める狙いも。
- グリーンボンドは一般の県債に比べ、ESG(環境・社会・企業統治)投資に注目する機関投資家からの需要が旺盛で資金を調達しやすい。具体的な用途や発行時期、主幹事は未定。発行額は数十億円の規模を想定。全国では東京都が2017年度から実施し、累積で500億円を発行。長野県と神奈川県も2020年度に50億円を発行した。

### 3. 多気町に国内最大級の商業リゾート施設「VISON(ヴィゾン)」が一部開業

- 4月29日、多気町に商業リゾート施設「VISON(ヴィゾン)」が一部開業。「VISON」は、東京ドーム24個分に相当する約119ヘクタールの敷地面積に、約68店を集めた国内最大級の商業リゾート施設。開業は3期に分け、今回は産直市場「マルシェヴィゾン」15店と、洋菓子とパンの「スイーツヴィレッジ」2店、猿田彦珈琲の計18店舗がオープン。6月5日の第2期では温浴施設など6店舗、7月20日の第3期では宿泊施設と食エリアなどが開業し、グランドオープンとなる。
- 施設全体では、売れ残った魚や野菜をレストランで再利用し食品ロスゼロ、生ごみ・食品かすを活用したバイオガス発電所による自立型電力の活用、自動運転バスなどモビリティ基盤の構築やキャッシュレス・地域通貨の導入などを活用した地域経済圏の構築など、SDGsを意識した地域課題解決への取組を積極的に推進する。

以上



## 景 気 指 標

三十三総研  
2021/5/31

## &lt;三重県&gt;

(注) ( )内は前年(同期(月))比 &lt; &gt;内は季節調整済前期(月)比

	2019年	2020年	2020年			2021年	2020年	2021年			
			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	12月	1月	2月	3月	4月
大型小売店販売額(全店)	(▲ 0.1)	( 5.3)	( 7.4)	( 4.0)	( 5.4)	( 1.1)	( 3.5)	( 4.1)	( 1.0)	(▲ 1.8)	
同 (既存店)	(▲ 2.2)	( 2.3)	( 2.5)	( 0.2)	( 4.5)	(▲ 0.0)	( 3.6)	( 2.2)	(▲ 1.0)	(▲ 1.3)	
新車販売台数(軽を除く、台)	58,613	50,995	9,471	12,558	13,862	16,764	4,382	4,445	5,197	7,122	3,890
	(▲ 2.6)	(▲ 13.0)	(▲ 28.7)	(▲ 20.9)	( 24.0)	( 11.0)	( 16.8)	( 13.4)	( 9.8)	( 10.4)	( 25.4)
うち乗用車販売台数(台)	51,181	44,665	8,182	10,990	12,202	14,919	3,841	4,043	4,598	6,278	3,383
	(▲ 4.0)	(▲ 12.7)	(▲ 29.7)	(▲ 19.7)	( 24.4)	( 12.2)	( 16.5)	( 16.2)	( 10.1)	( 11.4)	( 28.2)
新車軽自動車販売台数(台)	41,008	37,392	6,568	9,882	9,780	12,173	2,990	3,332	3,896	4,945	3,208
	(▲ 0.4)	(▲ 8.8)	(▲ 33.5)	(▲ 8.7)	( 22.4)	( 9.1)	( 24.3)	( 8.5)	( 8.6)	( 9.8)	( 41.6)
うち乗用車販売台数(台)	32,393	29,265	5,050	7,805	7,455	9,779	2,340	2,650	3,136	3,993	2,456
	(▲ 0.3)	(▲ 9.7)	(▲ 34.8)	(▲ 10.0)	( 21.3)	( 9.2)	( 25.7)	( 9.9)	( 8.3)	( 9.5)	( 37.4)
新設住宅着工戸数(戸)	10,162	9,558	2,080	2,275	2,764	2,389	798	815	757	817	
	(▲ 4.3)	(▲ 5.9)	(▲ 24.9)	(▲ 12.4)	( 4.6)	(▲ 2.1)	(▲ 11.3)	( 14.6)	(▲ 16.3)	(▲ 0.8)	
県内施設延べ宿泊者数(千人泊)	8,600	5,078	507	1,326	1,769		529	286	258		
	(▲ 3.4)	(▲ 40.9)	(▲ 76.7)	(▲ 44.7)	(▲ 14.7)		(▲ 19.3)	(▲ 48.9)	(▲ 49.7)		
有効求人倍率(季調済)	1.66	1.16	1.18	1.04	1.05	1.11	1.06	1.10	1.10	1.13	
新規求人倍率(季調済)	2.40	1.87	1.75	1.75	1.92	1.93	1.97	1.90	1.84	2.04	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	88,206	68,376	15,287	16,177	17,333	18,388	5,503	6,305	5,928	6,155	
	(▲ 4.0)	(▲ 22.5)	(▲ 30.6)	(▲ 23.8)	(▲ 18.1)	(▲ 6.1)	(▲ 12.4)	(▲ 14.2)	(▲ 9.8)	( 8.7)	
名目賃金指数(調査産業計)	( 0.6)	(▲ 0.9)	(▲ 0.9)	(▲ 2.3)	(▲ 2.0)		(▲ 5.4)	(▲ 1.0)	(▲ 0.2)		
実質賃金指数(同)	( 0.4)	(▲ 0.8)	(▲ 1.0)	(▲ 2.5)	(▲ 1.1)		(▲ 4.1)	(▲ 0.6)	( 0.0)		
所定外労働時間(同)	(▲ 1.7)	(▲ 13.7)	(▲ 25.4)	(▲ 18.1)	(▲ 5.6)		(▲ 2.5)	(▲ 7.3)	(▲ 7.5)		
常用雇用指数(同)	( 0.1)	( 0.8)	( 0.1)	( 1.0)	( 0.9)		( 1.2)	( 0.4)	( 0.1)		
鉱工業生産指数	(▲ 4.1)	(▲ 6.2)	(▲ 13.2)	(▲ 4.4)	(▲ 1.3)	( 2.7)	( 0.3)	(▲ 0.3)	(▲ 0.7)	( 8.5)	
	-	-	<▲ 9.6>	< 6.1>	< 2.8>	< 3.9>	< 1.9>	< 1.9>	< 0.6>	< 0.5>	
生産者製品在庫指数	( 3.2)	( 11.6)	( 14.0)	( 6.8)	( 13.7)	( 3.1)	( 20.3)	( 9.9)	( 1.2)	(▲ 2.2)	
	-	-	< 2.9>	<▲ 2.7>	< 7.1>	<▲ 4.1>	< 3.5>	<▲ 2.8>	<▲ 7.4>	<▲ 1.1>	
企業倒産件数(件)	68	66	14	11	17	15	6	6	4	5	1
(前年同期(月)比)(件)	( 1)	(▲ 2)	(▲ 7)	(▲ 1)	(▲ 6)	(▲ 9)	(▲ 2)	(▲ 5)	(▲ 5)	( 1)	(▲ 6)
非居住用建築物着工床面積(千㎡)	622	774	134	216	303	146	210	27	74	46	
	(▲ 32.8)	( 24.4)	(▲ 20.8)	( 68.4)	( 90.4)	( 21.0)	( 306.8)	(▲ 49.1)	( 99.2)	( 45.5)	
県内外国貿易 純輸出(百万円)	▲ 749,754	▲ 376,892	▲ 71,058	▲ 70,442	▲ 47,855	▲ 148,030	▲ 21,341	▲ 33,670	▲ 62,236	▲ 52,124	▲ 52,156
輸出(百万円)	907,716	772,294	156,159	186,791	219,248	206,813	76,203	67,846	65,185	73,782	75,737
	( 5.7)	(▲ 14.9)	(▲ 27.5)	(▲ 20.5)	( 0.4)	(▲ 1.6)	( 5.4)	( 4.3)	( 4.6)	(▲ 10.8)	( 16.5)
四日市港 輸出(百万円)	836,047	725,207	150,580	167,270	211,881	192,622	75,613	61,026	58,901	72,695	68,732
	(▲ 0.0)	(▲ 13.3)	(▲ 25.3)	(▲ 15.5)	(▲ 0.6)	(▲ 1.5)	( 4.5)	( 1.8)	(▲ 5.5)	(▲ 0.7)	( 15.6)
輸入(百万円)	1,657,470	1,149,186	227,217	257,233	267,103	354,843	97,544	101,516	127,421	125,906	127,893
	(▲ 7.6)	(▲ 30.8)	(▲ 45.3)	(▲ 35.5)	(▲ 36.4)	(▲ 10.6)	(▲ 36.3)	(▲ 27.4)	(▲ 0.0)	(▲ 2.9)	( 35.4)
公共工事請負金額(億円)	1,793	1,752	508	603	329	337	65	55	100	183	224
	(▲ 17.4)	(▲ 2.3)	(▲ 1.6)	( 3.1)	(▲ 9.3)	( 8.0)	(▲ 20.9)	(▲ 32.3)	( 71.4)	( 5.6)	( 19.3)
津市消費者物価指数	( 0.2)	(▲ 0.1)	( 0.1)	( 0.2)	(▲ 0.9)	(▲ 0.3)	(▲ 1.2)	(▲ 0.5)	(▲ 0.3)	(▲ 0.2)	(▲ 0.4)
同 (除く生鮮)	( 0.4)	(▲ 0.1)	( 0.0)	(▲ 0.1)	(▲ 0.9)	(▲ 0.2)	(▲ 1.0)	(▲ 0.2)	(▲ 0.2)	(▲ 0.1)	(▲ 0.2)

## &lt;東海3県(三重・愛知・岐阜)&gt;

	2019年	2020年	2020年			2021年	2020年	2021年			
			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	12月	1月	2月	3月	4月
大型小売店販売額(全店)	(▲ 1.1)	(▲ 2.0)	(▲ 5.7)	(▲ 3.0)	( 1.4)	(▲ 0.8)	(▲ 0.4)	(▲ 2.7)	(▲ 3.1)	( 3.5)	
同 (既存店)	(▲ 1.1)	(▲ 3.2)	(▲ 8.0)	(▲ 4.3)	( 1.1)	(▲ 1.1)	(▲ 0.4)	(▲ 3.8)	(▲ 3.8)	( 4.1)	
新設住宅着工戸数(戸)	88,566	75,080	18,375	18,157	19,493	17,351	6,068	5,264	5,396	6,691	
	(▲ 0.3)	(▲ 15.2)	(▲ 21.3)	(▲ 17.2)	(▲ 13.0)	(▲ 8.9)	(▲ 11.1)	(▲ 15.0)	(▲ 6.4)	(▲ 5.7)	
有効求人倍率(季調済)	1.90	1.24	1.29	1.09	1.05	1.13	1.05	1.10	1.14	1.14	
新規求人倍率(季調済)	2.90	2.06	1.90	1.88	2.04	2.15	2.11	2.22	2.09	2.16	
鉱工業生産指数	(▲ 1.6)	(▲ 13.1)	(▲ 32.4)	(▲ 13.3)	( 0.8)	(▲ 1.2)	( 0.3)	(▲ 6.6)	(▲ 4.1)	( 6.5)	
	-	-	<▲ 28.3>	< 25.8>	< 10.6>	<▲ 2.1>	<▲ 4.7>	< 3.2>	<▲ 4.7>	< 4.3>	
企業倒産件数(件)	762	746	163	210	172	130	46	44	35	51	31
(前年同期(月)比)(件)	(▲ 7.1)	(▲ 16)	(▲ 2.1)	( 9)	(▲ 33)	(▲ 7.1)	(▲ 20)	(▲ 37)	(▲ 17)	(▲ 17)	(▲ 53)
域内外国貿易 純輸出(億円)	79,893	71,160	8,985	18,468	24,940	20,308	7,954	5,818	6,116	8,374	7,856
輸出(億円)	168,646	141,831	25,899	34,751	42,309	39,915	14,066	12,016	12,428	15,470	15,070
	(▲ 2.0)	(▲ 15.9)	(▲ 39.1)	(▲ 16.3)	( 2.6)	( 2.7)	( 4.8)	( 3.5)	(▲ 8.4)	( 12.9)	( 45.8)
輸入(億円)	88,753	70,671	16,914	16,283	17,370	19,607	6,112	6,198	6,313	7,096	7,214
	(▲ 3.9)	(▲ 20.4)	(▲ 24.1)	(▲ 26.4)	(▲ 20.0)	(▲ 2.5)	(▲ 18.3)	(▲ 15.9)	( 10.8)	( 0.9)	( 3.9)

:各指標における直近の数値